

## 8. 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡

所在地：福井市城戸ノ内町字上城戸

調査原因：調査整備事業（第136次発掘調査）

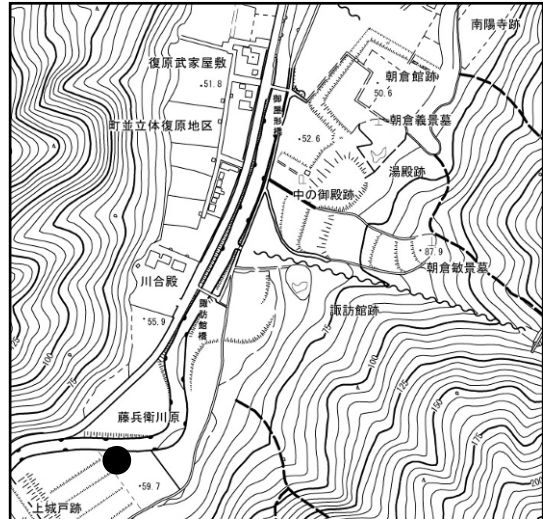
調査期間：平成23年10月4日～

平成24年3月23日

調査主体：福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

調査面積：約1,200㎡

時代：室町時代



位置図 (S=1/10,000)

**調査の概要** 第136次発掘調査区は朝倉館跡から一乗谷川の上流約400m、上城戸跡から下流に約100mの一乗谷川右岸に位置し、平成20年度(2008)に実施した第127次発掘調査区の西側に、またガラス工房跡が確認された第130次発掘調査区(平成21年度調査)の南側に隣接します。

この発掘調査は一乗谷川右岸の字米津から上城戸跡にかけて、戦国城下町の構造を明らかにし、遊歩道沿いの環境整備を進める目的で発掘調査を実施しました。

**遺構** 今回の発掘調査では、以前の調査で明らかになった遺構面から続く平坦地を約500㎡(以下、上段遺構面という)、その平坦地より約1.2m低い高さで約600㎡の下段遺構面を確認しました(史跡指定以前の一乗谷川河川改修による遺構削平部分約100㎡)。

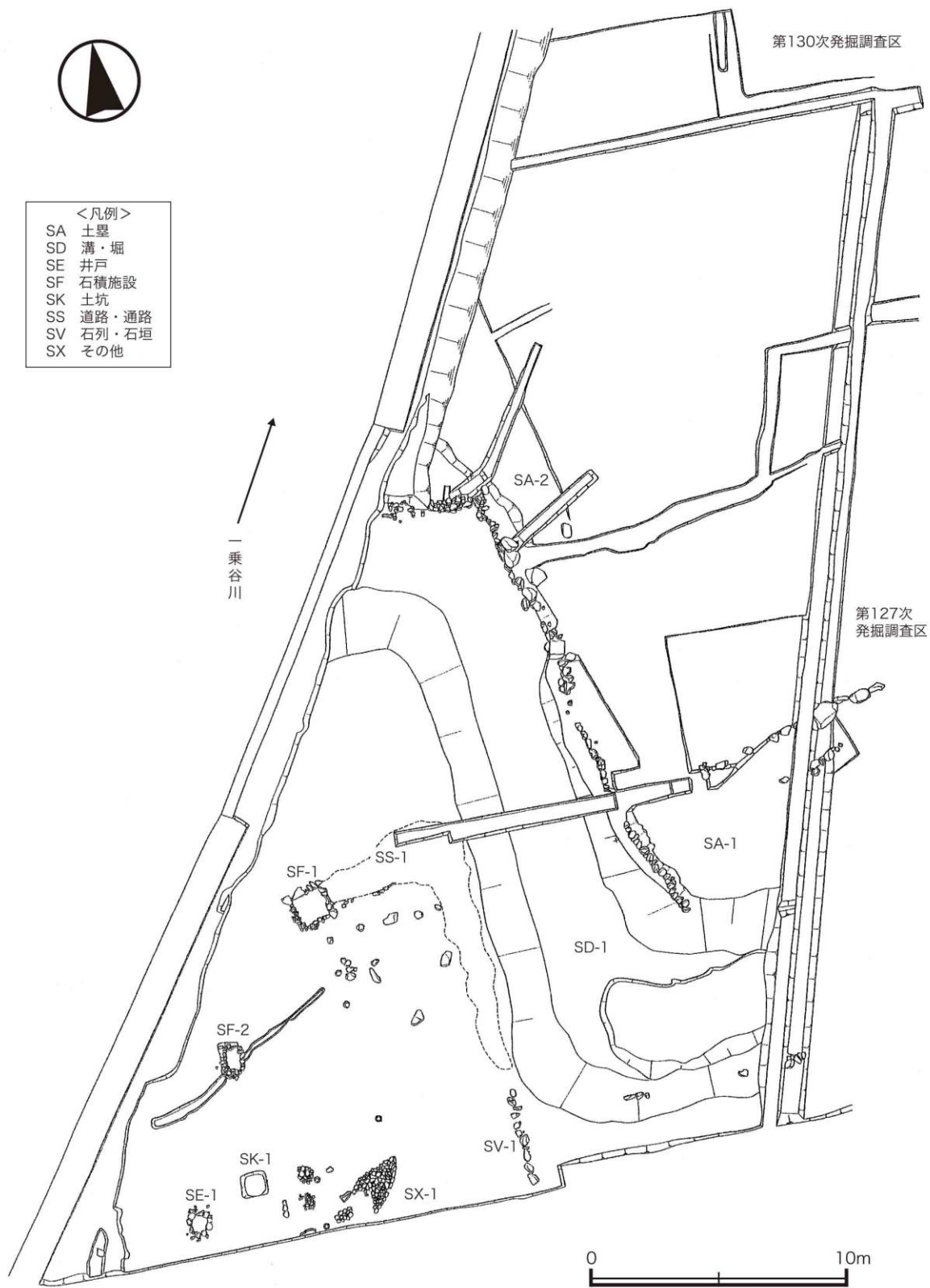
また、上段遺構面と下段遺構面は、最大幅約8mの堀(SD-1)で区画されています。東西方向の堀の深さは下段の遺構検出面から約0.9m、南北方向の堀の深さは下段の遺構検出面から約0.4mとなっています。

上段遺構面は昭和40年代の土地改良工事によって、遺構は削平を受けているため残存状況は良くありません。下段遺構面では遺構が良好に残存しており、井戸(SE)1基、石積施設(SF)2基、土坑(SK)1基、建物跡と想定される石敷きの遺構(SX)等を検出しました。また下段では、上段の遺構に使用されていたと推定される0.5~1.3m大の巨石を多数確認しました。どの遺構に使用されていたかは不明です。

**遺物** 遺物は同遺跡としては出土量が少なく、テン箱で18箱分でした。昭和40年代の土地改良工事によって、遺物包含層や遺構が削平を受けていたからだと考えられます。堀からの出土遺物のほとんどは土師質皿などの小破片でした。

**まとめ** 今回の調査では、調査目的の一つであった上城戸跡から朝倉館への幹線となる道路跡が確認できませんでした。

今後、ガラス工房をもつ屋敷跡および朝倉館跡から上城戸跡にかけて、周辺の調査・研究成果やこれからの発掘調査・遺物整理作業によって遺跡の内容を詳細に検討し、一乗谷の都市構造について解明していきたいと思っております。(川越光洋)



- <凡例>
- SA 土塁
  - SD 溝・堀
  - SE 井戸
  - SF 石積施設
  - SK 土坑
  - SS 道路・通路
  - SV 石列・石垣
  - SX その他

第136次発掘調査遺構平面図 (S = 1 / 200)



調査区全景（南西より）



井戸（北より）



石積施設（東より）